

令和元年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 歴史と民俗の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	152,800	人	未達	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				114,175	人		
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	41,040	人	未達	基準値: 41,035人 目標参考値: 41,035人
				40,535	人		
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,440	件	未達	基準値: 915件 目標参考値: 1,437件
				1,234	件		
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	15,360,000	円	未達	* 当該年度予算計上額
				13,424,528	円		

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	特別展・企画展	観覧者	特別展・企画展の観覧者数	28,190	人	未達	各特別展・企画展の目標観覧者数の合計 基準値: 28,188人 目標参考値: 28,188人
				26,146	人		
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	36	校	未達	昨年度実績による
				25	校		
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	108	校	達成	昨年度実績による
				108	校		
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	10,000	点	達成	資料点検年次計画による
				17,911	点		
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	251	件	未達	昨年度実績による
				188	件		
6	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	469,540	件	達成	基準値: 429,347件 目標参考値: 469,531件
				493,127	件		
7	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成	H28年度博物館協議会における協議による 昨年度実績88%
				89	%		
8	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	80	%	達成	回収1,018人中、大変満足・満足が862人 「東国の地獄極楽」84% 「北沢楽天と時事漫画」93% 「子ども/おもちゃの博覧会」82% 「縄文時代のたべもの事情」83%
				85	%		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>2 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みとインバウンド対応</p> <p>3 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>4 魅力的な常設展の運営と収蔵資料の活用</p> <p>5 学校教育との連携強化</p> <p>6 他施設等との連携強化</p>
事業の実施状況と過程	<p>1 博物館活動のベースとなる資料の収集、調査研究、保存管理体制の推進</p> <p>(1)文化遺産活用調査事業の実施と保存</p> <p>①「無形文化財調査研究事業 巡り・廻りの民俗行事」調査の実施</p> <p>②「歴史遺産調査研究事業『新編武蔵風土記稿』総合調査」の実施</p> <p>(2)計画的に資料の点検及び保存状態の確認を行いつつ、保存環境の整備も推進</p> <p>2 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みとインバウンド対応</p> <p>(1)貴重な県の文化財を展示するための環境整備として展示ケースを更新</p> <p>(2)国内外への情報発信体制の強化</p> <p>(3)展示室大型パネルの多言語化を実施</p> <p>3 「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展の開催</p> <p>(1)特別展「東国の地獄極楽」の実施</p> <p>(2)企画展「北沢楽天と時事漫画」の実施</p> <p>(3)特別展「子ども／おもちゃの博覧会」の実施</p> <p>(4)企画展「縄文時代のたべもの事情」の実施</p> <p>(5)特別展「武蔵国の旗本」・・・新型コロナウイルス感染拡大のため臨時休館</p> <p>4 魅力的な常設展の運営と収蔵資料の活用</p> <p>収蔵資料を有効に活用した月ごとの展示替えを実施</p> <p>5 学校教育との連携強化</p> <p>(1)学校団体受入れ及び出前授業を積極的に実施</p> <p>(2)県や市教育委員会主催による教員の年次研修の受入れ</p> <p>(3)文化資源課が実施する「子どもパワーアップ事業」への参加</p> <p>6 他施設等との連携強化</p> <p>(1)特別展「東国の地獄極楽」では、県立熊谷図書館や県立久喜図書館で関連図書等を展示</p> <p>(2)企画展「北沢楽天と時事漫画」をさいたま市漫画会館と連携しながら開催</p> <p>(3)特別展「子ども／おもちゃの博覧会」を国立民族学博物館と共催。</p> <p>(4)MVO連絡協議会の9施設による連携事業の実施</p>
事業の成果	<p>1(1)①「巡り・廻りの民俗行事」総括報告書Ⅰを刊行し、『今井・本川侯の廻り地蔵』DVDを作成した。</p> <p>②『新編武蔵風土記稿』に係るデータベースの整備等を行った。</p> <p>(2)年間を通じて計画的に全職員でIPMと資料確認作業を行い、安定した保存環境を維持できた。</p> <p>2(1)新たに展示ケースを購入し、展示環境の整備を行った。</p> <p>(2)埼玉県立博物館施設8館合同HP「SAITAMAおもてなしミュージアム」の充実を図った。</p> <p>(3)展示室大型パネルにQRコードを設置して、5種類の言語の解説を見られるようにした。</p> <p>3(1)～(4)特別展・企画展には昨年度よりも多い26,146人の入館があり、満足度は目標値を超えて85%に達した。</p> <p>4 年間で常設展の展示替えを34回実施。撤収資料点数757点、新展示点数768点であった。</p> <p>5(1)108校の学校団体を受入れ、25校へ出前授業を行った。</p> <p>(2)教員の年次研修や教員向けのセミナー等を12回実施し、203名の参加者があった。</p> <p>(3)秩父市立吉田中学校で、埼玉の神楽をテーマに授業を行った。</p> <p>6(1)～(3)各図書館や博物館と連携することにより、展示について広く周知するとともに、観覧者数を増やすことができた。また、共催実施することで幅の広い展示を行うことができた。</p> <p>(4)11月11日から2月11日までスタンプラリーを実施し、達成者には景品を贈呈した。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	34人 (22人)	総予算額 (人件費を除く)	108,706,000円	職員一人あたりの県民人口	21.5万人
収蔵資料総点数 (H31.3末現在)	125,995点	事業経費 (上記の内数)	79,948,000円	利用者一人あたりのコスト (平成30年度)	800円
平成30年度 収集資料点数	954点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	15,360,000円 (7,886,500円)	県民人口に対する利用者割合 (平成30年度)	1.76%

(注)平成31年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,326,981人である

2. 全館共通項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	収集点数 273点
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	埼玉県関係資料
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	巡り・廻りの民俗 行事調査
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	作成済
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	資料評価会 議開催
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理 台帳による
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し、管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	同上
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理 要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	IPM委員会の開 催(年2回)
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	IPM研修の 実施(月2回)
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	IPM及び空 調管理等
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	月2回実 施
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実 施
	⑦ 資料の殺虫・殺菌処理を適切に行っているか	A	燻蒸・忌避剤 散布の実施
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定及 び記録化の 実施
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使 用、資料別光度測 定
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	月2回資料点検を 実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	月2回のIPM作 業・資料点検時等 に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	刀剣手入れ 等
	⑬ 借用資料・寄託資料の更更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期 的更新を実施

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	収蔵資料データベース
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定等
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	申請書等のHP公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数567点
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数45点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数344点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	25年3月公開
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	適宜更新
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧者との接触等
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	視認性を考慮したサイン・パネルの設置
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視員・警備員の配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	閉館・閉館時の巡回点検
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	解説リーフレットを充実させることに移行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	展示室ごとに作成、配布
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	ボランティアガイド 学芸員展示解説
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	来館者アンケート
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析により適宜対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP、月別イベントチラシ等
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP、SNS、月別イベントチラシ等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、葉書
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	体験メニュー及び特別体験メニュー
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置、外部講師による講座の実施

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	用具の管理及び注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	既存プログラムの改良改善、新規開発の調査等を実施
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	学び文庫
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習、インターンシップ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	展示解説ボランティア・体験ボランティア
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱、活動細則
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア研修会、定例会の開催
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	館HPで公開
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	友の会共催事業、ゆめ・体験ひろばイベント
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	大盆祭り、北区民まつり等参加
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	要覧等に明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	文化遺産調査活用事業の実施
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系に基づき実施
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加等
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	無形民俗文化財・歴史遺産の調査、紀要執筆他
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	紀要執筆他
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	歴博との「番方旗本家に関する総合的研究」等
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	歴史民俗講座、紀要執筆
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	県政出前講座他
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算をもとに検討
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め、ネット掛け他
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	令和元年5月改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防訓練、地震訓練及び救命講習を実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	無料スペースに設置
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子8 ベビーカー2

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台分
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	エレベーター、階段昇降機の配備
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインの採用、サインの改修
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	常設展解説パネルの多言語化を実施
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季の延長を実施
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体のバス利用は臨時駐車場を確保
施設の利活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則、様式第3号
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	館HPに利用案内を公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・講座室
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・無料休憩コーナー
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	B	ミュージアムウィレッジ大宮公園他
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	各種スタンプラリー実施

3. 館別独自項目チェックリスト

歴史と民俗の博物館

評価基準				
完了または順調に進捗していて問題がない状態			A	
着手状態乃至課題が残されている状態			B	
未着手状態			C	
項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
特別展・企画展事業の実施	①	中・長期的な展示計画を策定し、特別展・企画展を実施しているか	A	中期計画を策定
	②	県民ニーズや時代の要請を踏まえて、時宜を得た特別展・企画展を開催しているか	A	アンケートの要望を参考
	③	調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した特別展を開催しているか	A	新出資料の展示、記念講演会開催
	④	全国の博物館や文化財所有者との連携による特別展を開催し、県民に日本の優れた文化遺産を積極的に公開しているか	A	特別展2回 企画展2回
	⑤	模範的、先進的な展示手法を用いた特別展を開催しているか	A	映像の利用や子供キャプションの設置
	⑥	展示観覧者アンケートにより満足度・ニーズを測定し、以後の展示事業に活かしているか	A	展覧会ごとに観覧者アンケートを実施
	⑦	展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	年間目標値を設定
	⑧	展示内容に則した弾力的な広報活動を実践しているか	A	展覧会ごとに広報先を選定
中核的施設としての活動	①	勧告・承認施設として資料を公開しているか	A	国宝太刀・短刀、国宝慈光寺経、重文熊野神社境内古墳出土品他
	②	公開承認施設として資料を公開しているか	A	重文東山遺跡出土瓦塔・瓦堂、重文三十六歌仙額他
	③	県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	A	11月に「刀剣手入れ」研修を実施
	④	県内の博物館施設を対象とした協力・支援事業を実施しているか	A	埼玉博連会長館及び事務局
	⑤	県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	A	秋季特別展
	⑥	県立博物館施設相互の連絡調整を図っているか	A	経営総合調整会議
ゆめ・体験ひろばの運営	①	地域の文化資源を活用した博物館ならではのプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	②	埼玉の歴史や文化の理解につながるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー、特別体験メニュー
	③	いつでも、手軽に参加できるプログラムを提供しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
	④	世代間交流ができるプログラムを提供しているか	A	お囃子体験教室、ペーゴマ教室他
	⑤	常設展示室と連携したプログラムを提供しているか	A	展示室ワークシートの実施
	⑥	多様なマンパワーが参画・協働できるプログラムを提供しているか	A	昭和の原っぱイベント他
	⑦	地域と連携したプログラムを提供しているか	A	特別体験事業
	⑧	学芸員の専門性をプログラムに反映しているか	A	ものづくり工房体験メニュー
伝統文化の記録・公開・継承	①	県内の民俗文化財に関する資料の記録化に取り組んでいるか	A	巡り・廻りの民俗行事調査
	②	展示や公演をとおして県内の民俗文化財を県民に公開しているか	A	有形民俗文化財長板中型・青織の展示
	③	県内の民俗文化財の継承につながる講習会等を実施しているか	A	民俗芸能講習会「おかめ・ひよっとこの舞」
	④	伝統文化継承者、伝統技術保持者の支援・育成に努めているか	A	文化振興基金助成審査委員

令和元年度 博物館施設 総合評価 (年度末)

施設名 歴史と民俗の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	0	4
各館独自	数値目標による評価	5	3

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	89	1	0
各館独自	チェックリストによる評価	26	0	0

自己評価総括

評 価	<p>①特別展「東国の地獄極楽」は、最近5年以内では4番目に多い観覧者を数えることができた。企画展「北沢楽天と時事漫画」は観覧者数がやや低調であったが、特別展「子ども/おもちゃの博覧会」は家族連れを多く取り込むことができた。その後の企画展「縄文時代のたべもの事情」も土日を中心に親子連れの来館が増える傾向にあり、認知度を高めることができた。なお、2月29日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館となったことが惜しまれる。</p> <p>②アンケートから見た観覧者の満足度は、常設展、特別・企画展ともほぼ昨年度と同様に高い数値に達した。特に企画展「北沢楽天と時事漫画」では93%の高い満足度を示した。</p> <p>③9月に実施した、国宝刀剣展示とゲームのコラボでは、例年よりも多くの観覧者(とくに学生)があった。関連事業の民俗工芸実演「刀身彫刻」では、多くの熱心な参加者がみられた(122名)。</p> <p>④展示資料に関する撮影のルールを大幅に見直すことにより、利用客がより楽しむことができる環境を整えることができた。</p> <p>⑤年間の資料点検数は目標値を達成できたのは、館職員が一体となって点検作業を行った成果である。</p> <p>⑥全館体制での広報戦略会議を開催し、効果的な広報方法を検討・実施することで、昨年度よりも観覧者数を増やしている。</p> <p>⑦HPのアクセス数は例年に比べ増加した。博物館の情報発信方法として、HPの役割がさらに大きくなってきている。</p> <p>⑧評価シートにはあらわれないが、ゆめ体験広場における体験メニューの利用者や収入は昨年度に比較して増加傾向にある。H30年度 9,281人(月平均773人) 2,154,300円(月平均179,525円)、R1年度9,893人(月平均899人) 2,120,300円(月平均192,754円) ※3月は新型コロナウイルス感染拡大による休館となったが、利用者数や月平均収入は昨年度を上回った。</p> <p>⑨ぐるっとパス2019(東京の美術館・博物館等共通入館券2019)に参加することで、新たな利用客の掘り起こしにつながった。</p> <p>⑩QRコード決済等のキャッシュレス決済を導入することにより、利用客の利便性を高めることができた。</p>
課 題	<p>①観覧者数は目標値に近い数値となった。新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数は目標値を大きく下回ったが、特別展・企画展の展示に対する満足度は高い傾向を保っていることから、広報等を有効に行うことにより、観覧者数を伸ばすことが課題である。</p> <p>②特別展及び企画展開催時に比べ、常設展のみの開催期間(特に平日)は入館者数が極端に少なくなる。</p> <p>③寄託資料所蔵者の高齢化や世代交代に伴って、所蔵者の連絡先把握が困難になりつつある。</p> <p>④現行の通常体験プログラムは実施から10年以上経過し、内容の見直しを行う時期にある。しかし、埼玉の文化や産業を基にしたプログラムにする必要があり、内容のみでなく、材料調達、価格設定、指導ボランティア育成などの課題がある。</p> <p>⑤利用客の年齢層が小学生以下と高齢者層に二分化しており、高校生や大学生の利用が少ない。</p>
対 応 の 方 向	<p>【上記課題の番号に対応】</p> <p>①特別展や企画展の広報については、「ワンチーム博物館」として、担当を超えた情報共有及び広報作業を効率よく行うとともに、集客を意識した新たな企画の検討を進める。</p> <p>②常設展示の充実を図るとともに、適切な情報発信だけでなく、常設展のみ開催中の期間に講演会や体験イベントを企画するなど、閑散期の対策を行っていく。</p> <p>③所蔵者とは寄託の更新期間だけでなく、機会があればこまめに連絡をとるよう心掛ける。</p> <p>④博物館と博物館クルー、特別体験講師、ボランティア等と協力し、過去のメニューなども参考にしながら、プログラムの充実を図る。</p> <p>⑤高校生や大学生等若い世代が参加できる企画を行うなど、あらゆる世代に楽しんでいただけるようにする必要がある。</p>

評価結果に対するコメント

各館協議会・委員会の意見	<p>【博物館協議会委員】</p> <p>①館職員の皆様の努力がそのまま良い評価につながっていると思う。体験メニューの利用者、収入増はプログラム内容の高評価を表していると思う。【佐藤委員】</p> <p>②常設展、特別展・企画展の観覧者数、観覧料等収入額など、数値目標による評価で“達成見込”と評価した項目の半数近くは、新型コロナウイルスによる臨時休館や様々なイベントの中止・延期の影響で、1月末の間まとめで大きく増加することはないと思われる。当然、これらは職員の努力で達成できるものではない。観覧者数については、アンケートや聞き取り調査等による入館者の様々なニーズの把握、学芸員の柔軟な頭脳による新たな入館者層の開拓等、博物館にはもう少し伸びしろが存在すると思う。「ワンチーム博物館」として、なお一層のステップアップを期待している。【青柳委員】</p> <p>③ほとんどがA評価なので、素晴らしい。高校生・大学生の「博物館ファン」をなんとか集客のキーパーソンにする方法がないか、学芸員資格を取得できる大学(淑徳大学人文学部もそうですが)に協力をあおぐとか、どうでしょう?【朝倉委員】</p> <p>④令和元年度も様々な企画をありがとうございました。「北沢楽天と時事漫画」では、北沢楽天会館より、よく理解できた。大変感動した。「おもちゃからみる子どもと社会」「縄文時代の食べ物事情」・・・よくここまで調べていただいたと思った。たくさんの地域に赴いて、くいさがつて調べていらっしやると思うと、大変嬉しく思った。本当にありがとうございました。【田熊委員】</p> <p>⑤2月と3月は新型コロナウイルスの影響を大きく受けていると思う。そのため、1月末現在で「達成見込」だったものは、令和元年度に限り「達成」と評価しても良いと思う。令和2年度の目標値も、このままでは「未達」となってしまう項目が出てきてしまうと思うが、そのことについても考慮していきたいと思う。</p> <p>また、「英文標記などの国際化」がB評価になっているが(注:1月末時点)、東京2020大会が1年延期になったことを好機と捉え、引き続きインバウンド対応を進めてほしい。【島野委員】</p> <p>⑥2期(4年)協議会委員をさせて頂きありがとうございました。項目チェックリストでは、4年間で評価B、Cであったのが(A)評価になっているのも博物館の職員の方々の努力の効果であると思う。【木村委員】</p>
	<p>【博物館評価小委員会 浅倉委員】</p> <p>①新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館のため、今年度は目標未達という結果ではあるが、いずれも7割以上の達成であり、様々な取り組み・努力が十二分に効果をもたらしていると思える。</p> <p>②とくに、特別展・企画展の観覧者が年度末の特別展の中止にもかかわらず9割達成していること、企画展・特別展のアンケートの満足度が高い数値である点は、特筆すべきといえる。その点では、前評判の高かった「特別展 武蔵国の旗本」が開催されずに終わることは非常に惜まれる。</p> <p>③年間の資料点検数については、目標達成に終わる(満足する)ことなく、点検の結果を、展示および紀要での資料紹介などに、大いに活用されたい。あわせて、これまで研究対象となりにくかった収蔵庫の奥に眠っていた資料もあるのではないかとと思われるので、そうした資料についての研究の進展も期待するところである。</p> <p>④常設展のみの開催期間における平日の入館者数が少ない点は、当館のみの課題ではなく致し方ない面もあるが、対応策として、当該期間の来館者に特典(複数回の来館者に次回特別展・企画展の招待券や半額券を配布するなど)を用意するなどの案を検討されては如何であろうか。</p> <p>⑤高校生および大学生の利用が少ない点は残念である。他県の県立歴史博物館では高校生まで常設展無料の例も参考に、歴史に興味のある高校生、歴史学科の学生を対象を絞った来館意欲が増す企画が必要とも思われる。主な大学歴史学研究室には企画展・特別展のちらし・ポスター・招待券を郵送していると承知しているが、高校の歴史担当の教員など、さらに宣伝先をひろげる方法を検討いただきたい。</p>

【博物館評価小委員会 清水委員】

①全館共通項目のうち「数値目標による評価」はいずれも目標値を達成していないが、コロナウィルス対策にともない、令和2年2月29日から当館が休館したため、3月いっぱい大宮公園の利用とあわせて特別展「埼玉の旗本展」を公開できなかったことを前提に評価する必要がある。

平成30年度と令和1年度を比較すると、「年間入館者とアウトリーチ参加者数」は令和1年度が下回っているが、常設展観覧者数は上回っている。また、館別独自項目における「特別展・企画展」の観覧者数も令和1年度が平成30年度を上回っている。3月に当館の対外的な活動が事実上停止していたことをふまえると、常設展・企画展・特別展の利用状況が良くなかったとはいえないと考える。「館別独自項目」の満足度調査でも、常置アンケート、企画展・特別展アンケートの満足度は80%を超えており、十分な評価を得ている。

②「チェックリストによる評価」では、「全館共通項目」90のうち89、「各館独自項目」26全てが「完了A」であり、博物館としての質的取り組みは十分になされていると評価できる。

③「数値目標による評価」のうち、「館別独自項目」の学校利用（「出前授業」・「団体利用」）は、年度ごとに数値が上下している観がある（出前授業の場合、平成29年度は24校、平成30年度は36校、令和1年度は25校）。これらについては、昨年度実績に基づく目標値設定を見直し、中期的な年度幅の平均値等を目標値にした方が現実的ではないだろうか。

④常設展の利用状況をさらに上昇させるため、常設展のみ開催中の期間に講演会を設けるという対応の方向は評価できる。その際、常設展の展示内容や展示資料と関連づけたテーマを設定することで、参加者の常設展に対する興味・関心を深めることができるのではないかと考える。また、特別展・企画展の成果を（常設展全体の流れとの整合性や学芸員の負担との関係上）可能な範囲で常設展示に反映させ、それを周知することも、常設展に「埼玉ならではの価値」をさらに付加し、かつ常設展見学者のリピートを促すのではないだろうか。

【博物館評価小委員会 高野委員】

①本館は、以下に見られるように、公立博物館として大変魅力的な博物館運営をされており、公立博物館としての役割を十全に果たしていると考えられる。

②新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館が生じたため、数値目標の目標値に到達することは出来なかったが、これは自然災害による予期せぬ出来事であるため致し方ないと考える。

③こうした災害時などは、数ではなく質的な指標を参照する方が評価の姿勢として望ましいと考えるため、以下は質的な内容を中心に述べる。

・「東国の地獄極楽」や「子ども／おもちゃの博物館」などの工夫を凝らした特別展は、その企画力により、通常は博物館へ行かない層へのアウトリーチとしての機能もみられ、着実な集客につながったと思われる。

・企画展「北沢楽天と時事漫画」では、特に展示内容が大変充実しており、アンケート結果の高い満足度（93%）に繋がっていると思われる。

・特別展「武蔵国の旗本」においては、埼玉県における郷土史研究という意義や、また歴史研究においても顧みられることの少なかった旗本研究に着目するなど、公立博物館としての意義が高く、また、歴史研究に資する展示という意味でも、大変意義深いものであった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館となり、開催できなかったことが大変惜しまれるが、展覧内容の動画公開など、状況に適した対応がみられた。

④広報については、通常の情報発信もさることながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館となった後も、SNSにおいて歴史クイズを配信するなど、工夫がみられた。

⑤今後の課題としては、自己評価にあるように、常設展の開催期間にあたる平日の利用者数の増加、通常体験プログラムの深化・更新、高校生・大学生層の利用増加があげられるかと思われる。こうした3点は、今後の未来の博物館運営に長期的に影響してくるという意味で重要な点であるが、これらを有機的に関連付けることで、新たな博物館の在り方を模索できる可能性もあるかと思われる。高校生・大学生においては、学校に歴史クラブやサークルがあるなど、潜在的な利用者は存在するかと思われる。体験プログラムの更新プロジェクトを委員会方式にし、委員会に高校生・大学生を取り込み、委員会を平日の夕方に開催するなどの試みも模索できるのではないかと考える。